

自衛隊輸送関連施設の誘致

■ 現 状

室蘭港は、渡島半島と絵鞆半島が外洋から遮蔽する天然の入江地形に加えて、二重の防波堤で被覆された静穏な港湾です。古くは石炭の積出港に始まり、主に鉄鋼業を安全に支える産業港湾として開発されてきました。

自衛隊との関係では、東ティモールやイラクでの国際平和協力活動や災害派遣、訓練、艦艇の補給や休養等で活用されています。

2021年の陸上自衛隊演習では、北海道内の港湾で唯一、自衛艦による部隊の輸送が行われました。また、2022年に開港150年を記念して入港した護衛艦「ひゅうが」、砕氷艦「しらせ」は、多くの市民が歓迎しました。

室蘭市を含む西胆振地域の各自治体は、陸上自衛隊第7師団第71戦車連隊と「災害時の連携に係る協定書(2012年)」を締結し、日頃から地域の防災訓練やイベント等を通じて連携しています。

室蘭市議会で「室蘭港の防災拠点港の拡充を図る自衛隊の輸送関連施設の誘致を求める決議書」が採択されています。(2013年5月17日)

■ 要 望 内 容

● 物流機能の強化に向けた自衛隊の輸送関連施設の室蘭市への配置

■ 事 業 効 果

- 北海道から全国に展開する対応力強化
- 後方分野も含めた防衛力の持続性・強靱性の強化
- 「海上輸送路の確保」「弾薬、燃料等の安全かつ着実な整備・備蓄」「自衛隊の運用にかかる基盤などの分散」という観点から国民の安全安心への寄与